

# STYLING

## MONO

「Montblanc」という名が登場したのは1909年、  
商標登録されたのは翌1910年のこと。  
ペンキャップに白いトップが付いたのもこの年。  
そして1913年に、モンブランの山頂を覆う雪を  
イメージした「ホワイトスター」が登場。  
このひと目で判る白いマークは、以降の  
すべての製品に付けられるようになる。



## Vol.68 Montblanc SINCE 1906~

### ●【モンブラン】

Photo / Tomoaki Tsuruda(WPP)  
Richemont Japan Ltd. Montblanc Communication  
Text / Teruhiko Doi(WPP)



パピルスに記された  
古代エジプトの文字、  
羊皮紙で作られた帝政時代の本、  
竹簡に書かれた  
流麗な古代中国の漢字。  
文字は地球上に生息する  
動物群の中で、唯一人間だけが  
使いこなすことができた記録手段、  
コミュニケーション手段である。  
そして文字は、  
植物繊維から生まれた  
紙の発達によって進化した。  
やがて緩やかにではあったが、  
文字を記すための筆記具も  
進化を遂げてきた。  
おそらく数ある筆記具の発明  
の中でも、万年筆ほど科学的で  
メカニカルな発想で、  
後の世の筆記具の進化に寄与した  
存在はないだろう。  
19世紀に考案され、  
毛細管現象の  
ペン軸の発想が生まれ、  
20世に初頭には  
多くの万年筆ブランドが登場した。  
中でもドイツの『モンブラン』社は、  
万年筆というよりも、  
筆記具の王様と称される名品  
「マイスターシュテュック」を発売。  
この太軸で、  
しかし流麗なフォルムの  
魅力的なペンは、  
瞬く間に世界中の人々を  
魅了する存在となった。

# STYLING

## MONO

モンブラン・マイスターシュテュック149が  
名品であり続ける理由の一つとして  
世界の歴史的なシーンに立ち会ってきた  
事実がある。多くの条約の調印で使用されたり、  
各国王室の結婚式におけるサインのセレモニー  
あるいは、有名作家たちの愛用品として  
使われてきた歴史そのものが名品の歴史となる。



ペン先の「4810」は、ヨーロッパの最高峰モンブランの標高を表す。  
製造番号149を冠する名品が登場したのは1952年のことだ。

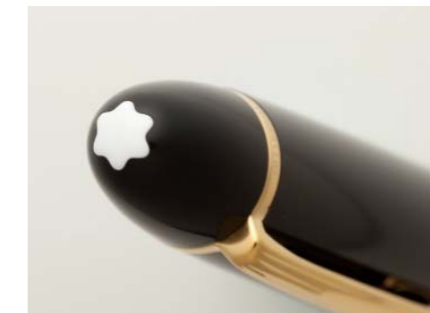
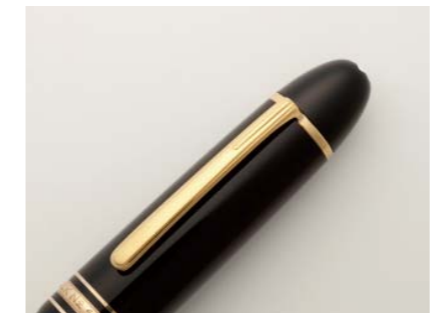


書くことを芸術の域にまで高めた  
筆記具としての評価は永遠だ。  
MOMA(NY近代美術館)の  
パーマネントコレクションという  
評価だけではなく、長い年月の中で  
多くの作家や一般の愛好者たちが  
語り続けてきた評価こそが、  
この万年筆の価値を定めている。



ドイツ・デザインの根源的な考え方は  
バウハウスに帰属する。  
ブラウンのシェーバーも、ワーゲンの  
フェルドランプも、そしてモンブランの  
マイスターシュテュックも然りだ。  
1924年の登場から90年になる  
この現代でもその名を知られ、  
手の加えようのないデザイン性と

シンボルマークである「ホワイトスター」はモンブラン山頂の水河を  
図案化したもの。ひと目でそれと判るこのアイコンは秀逸なデザイン。



# STYLING



1963年、ケルンで起きた珍事。当時のドイツ首相アデナウアーが芳名帳にサインしようとしたらペンが見当たらず、すかさずケネディ米大統領が愛用のマイスターシュテック 149を差し出した。高齢の首相と若き大統領の心温まる交流シーンである。



モンブランの万年筆に初めて採用された白いペンキャップが、最初は大きなドットだったことが判る1910年代の広告。ペンと山の共通イメージを視覚的に訴えている。

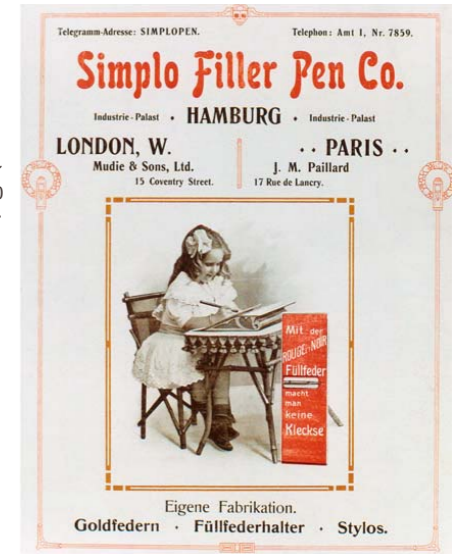
1920年代〜1930年代に展開された広告のひとつ。Montblancの巨大なペンとロゴを屋根に、ホワイトスターをホイールにアレンジした宣伝カー。



当初から自社製品をヨーロッパ最高峰の「モンブラン」になぞらえてきた同社。丸みを帯びたキャップやボディの形状はモンブランをイメージしたものだという。だからこそ、山頂部には雪のイメージのホワイトスターがはいり、ペン先には標高を表す数字4810が入るのだ。



ハンブルグに本拠地を置き、ロンドンとパリに初の海外支店を置いた1910年頃の印刷物。まだ社名はシンプロ・フィラーペン・カンパニーである。



## 筆記具の王様マイスターシュテック149

「nc」の名称を商標登録。以降、生産されるすべての筆記具にその名が用いられることに。更なる技術開発で完成度を高めた「Montblanc」という万年筆が発売されたのもこの年。ペン先を白いトップにして、誰が見てもシンプロ社のペンと判るデザインが特徴的だった。この白いトップは後に（1913年より）ホワイトスターのアイコンへと変化していく。1924年には、現在も続く「マイスターシュテック コレクション」がスタート。現在の製品と比較しても遜色のない機能とデザインで、歴史に残る完成された筆記具の登場となった。1920年代の終わりにには世界60カ国への輸出を果たし、そのブランド名は世界中で知られる存在となる。大々的な広告展開を行ったのもこの頃からである。

1929年にはマイスターシュテックのペン先に「4810」というモンブランの標高の刻印が開始された。そして1934年にブランド名であった「モンブラン」が社名に採用されるようになる。戦争が終わり、社会も落ち着きを見せ始めた1952年、開発番号「149」を冠したマイスターシュテックが発売される。この伝説的な太字のペンは筆記具の文化におけるシンボリックな存在として愛され、同社が世界規模で成功

ベルリンの壁崩壊、そして統一ドイツの誕生。1990年10月に調印された統一条約書の署名に使用されたのは、モンブランの「マイスターシュテック149」であった。おそらく、ドイツという国の歴史の中で最も世界から注目された歴史的な調印。その署名のサインに使用されるペンは、モンブラン以外考えられなかつたはずである。なぜならマイスターシュテック149は、筆記具の王様と言われる存在だからだ。

モンブランの歴史は1906年に始まる。工業化が進むドイツでは、重い労働の割には収入の少ない農業を離れて工業製品の製造に転身する人が少なくなかつた。中には転身を機にそのまま起業家として活躍する人もいた。20世紀

初頭は多くのモノ作りブランドが誕生した時代である。そうした時代の空気、経済の動きに敏感な人間の筆頭は銀行家であろう。ハンブルグの銀行家アルフレッド・ネヘミアスは、ベルリンのエンジニアであったアウグスト・エーベルシュタインを誘って、ペンを製造する事業を開始した。社名は「シンプロ・フィラーペン・カンパニー」。インク容器とペンが別々になった旧来のペンではなく、インクをペンの本体内に収納した一体型のニューデザイン、というのが当時の万年筆の価値観であった。ただ、当時の万年筆はインク漏れがひどく、紳士淑女たちのスーツやドレスを汚してしまふ事故もしばしば起きたという。シンプロ社はそうした機能的な問題をエンジニアリングで解決し、そこにブランドとしての信頼性を勝ち取ることを目指した。やがて1909年にインク染みの心配がない、というキャッチフレーズで売り出された「ルージュ・エ・ノワール」が話題になった。この、安全な万年筆は「Montblanc / シンプロ」というブランド名で売り出され、大変なヒット商品となる。

翌1910年にはそのヒットを受けて「Montblanc」

「nc」の名称を商標登録。以降、生産されるすべての筆記具にその名が用いられることに。更なる技術開発で完成度を高めた「Montblanc」という万年筆が発売されたのもこの年。ペン先を白いトップにして、誰が見てもシンプロ社のペンと判るデザインが特徴的だった。この白いトップは後に（1913年より）ホワイトスターのアイコンへと変化していく。1924年には、現在も続く「マイスターシュテック コレクション」がスタート。現在の製品と比較しても遜色のない機能とデザインで、歴史に残る完成された筆記具の登場となった。1920年代の終わりにには世界60カ国への輸出を果たし、そのブランド名は世界中で知られる存在となる。大々的な広告展開を行ったのもこの頃からである。

1929年にはマイスターシュテックのペン先に「4810」というモンブランの標高の刻印が開始された。そして1934年にブランド名であった「モンブラン」が社名に採用されるようになる。戦争が終わり、社会も落ち着きを見せ始めた1952年、開発番号「149」を冠したマイスターシュテックが発売される。この伝説的な太字のペンは筆記具の文化におけるシンボリックな存在として愛され、同社が世界規模で成功

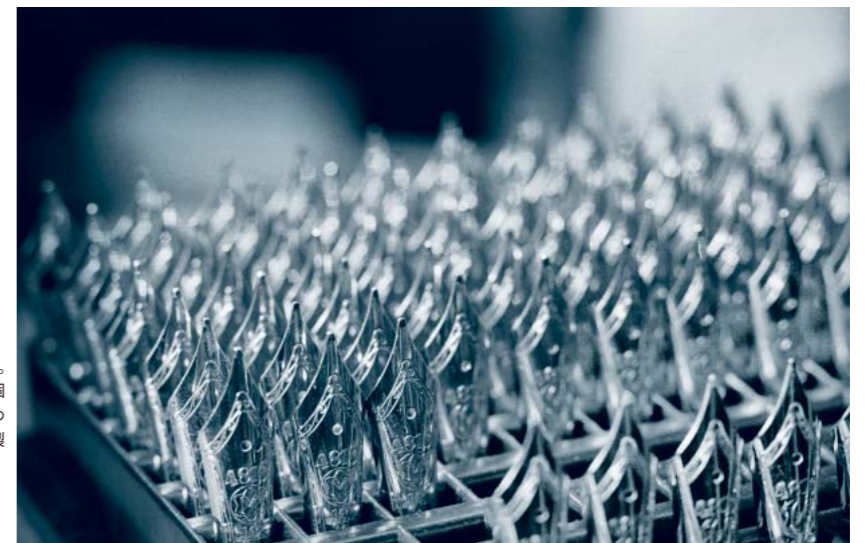


書き味とペン先の感覚、インクの出具合など現在も職人の手によって調整されている。「マイスターシュテック」の名のとおり、職人性がそこに息づいている。

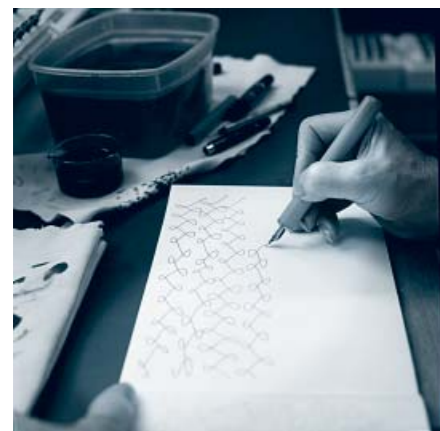
1927年の文房具店の店頭。モンブランがすでに人気のある一流ブランドであったことが判る写真だ。



「マイスターシュテック」とは職人の技を指す言葉。産業革命が進んだ当時のドイツでも、やはりデザイン潮流が職人性回帰を促したという好例。アーツアンドクラフツの精神ともいえる。



工場内で調整される美しいペン先。「マイスターシュテック 149」は個人で異なる書き味の好みを調整。つまり、利用者の手に渡って初めて製品が完成する、ともいえる。



# STYLING

## MONO

モンブラン製品に関する  
お問い合わせは  
モンブラン銀座本店  
☎03-5568-8881  
<http://www.montblanc.com>



写真左は創業当時のモンブラン  
本社。人物写真上は創業者の  
一人で銀行家だったアルフレッ  
ド・ネヘミアス。人物写真下は同  
じく創業者の一人、アウグスト・  
エーベルシュタイン。



マイスターシュテュック  
149/ロジウム仕上げを  
施した18金ペン先。ボデ  
イはブラックプレシャス  
レジン、シリアルナンバ  
ー入り。吸入式。  
価格10万1520円



マイスターシュテュック 90周年 コレクション 149 万  
年筆/パーツにレッドゴールド仕上げを採用したアニバ  
ーサリーエディション。4810以外に「90」の数字が刻印さ  
れるのは期間限定だ。価格10万1520円

### モンブランブランドの さまざまなアイテム



マイスターシュテュック ヘリテージ パレングラフ  
リミテッドエディション 9  
価格369万6840円 (9月発売予定)



マイスターシュテュック 90周年 コレクション カフリンクス  
価格2万5920円



マイスターシュテュック 90周年 コレクション エグゼグテ  
ィブトートバック/価格11万6640円